

# 1967年

めに腐心した。この年、岩波映画の小

●1月 白石凡、白土吾夫両常任理事

●5月

毛主席「延安の文学・芸術座

●12月 アジア・アフリカ作家ビュ

中国では「毛主席語録」が大量に出版され、黒龍江省、上海市などで革命委員会が成立。当協会は「文化大革命」の混乱が進む中国の情勢を注視しながら、文化交流継続のため

林勇氏の要請を受け、七年前から準備を進めていた長編記録映画「夜明けの国」が完成・上映され、大きな反響を呼び、翌年の毎日映画コンクールで受賞した。また、武田泰淳氏を団長とする日本作家代表団などが訪中した。

が訪中、白土常任理事が「日中両国人間の文化交流に関する覚え書」に調印。  
●4月 郭沫若記念碑が市川市に建立。日本作家代表団（武田泰淳団長、杉森久英、永井路子、尾崎秀樹らの諸氏）訪中。  
●9月 郭沫若記念碑が市川市に建立。日本作家代表団（武田泰淳団長、杉森久英、永井路子、尾崎秀樹らの諸氏）訪中。

周年の式典に出席、毛沢東主席と会見。  
●10月 「夜明けの国」上映。当協会と中国人民対外文化友好協会の間で結ばれた「日中両国人民間の文化交流に関する共同声明」に基づき製作されたもので、岩波映画製作所の撮影隊が六六年八月から半年間、「文化大革命」進行中の北京、瀋陽、撫順、鞍山、長春、ハルビンなどの都市と農村を取材。撮影されたフィルムは四万六千フィート、上映時間は一時間五十分。十月から東京でロードショー公開され、その後、年末から翌年にかけて全国各地で一般上映され好評を博し、第二十二回毎日映画コンクール映画賞、教育文化映画賞を受賞。



建国十八年を慶祝し日中文化交流協会代表団が訪中、人民大会堂で毛沢東主席(右一)と握手する団長の河原崎長十郎氏(左一)、白土吾夫副団長(左二)。崔泰山氏(右二)と

一九六七年十月四日

日本作家代表団の団長として杭州・西湖を訪れた武田泰淳氏(左)。氏はこの時、女性革命家・秋瑾を描いた小説『秋風秋雨人を愁殺す』を執筆中であった。右は初訪中の尾崎秀樹氏

一九六七年五月

●8月 毛沢東著作言語研究家日本代表団(香坂順一団長、大原信一、柴垣芳太郎、新島淳良、服部昌之、大村益夫、興水優の諸氏)訪中。  
●9月 日中文化交流協会代表団(西園寺公一名譽団長、河原崎長十郎団長、白土吾夫副団長、清水正夫、豊田正子、福田弘、矢永浩子、松丸薫の諸氏)訪中、北京で建国十八

中国で進行する「文化大革命」により、日中文化交流は大きな影響を受けざるを得なかった。いわゆる「文革」の理念がどんなものなのか、どこに進もうとしているのか、外国人には分かりづらく、特に武闘など批判のやり方が理解できなかった。事務局員は「文化大革命」の嵐を実感するため、年末年始の休暇を利用して、日中文化交流協会活動家代表団として訪中した。